



浪江フラワープロジェクトの最新情報をホームページで!

毎月、動画をアップ中!ぜひアクセスしてください!

<https://www.namie-flower.jp>



Facebookもチェック

浪江町 農林水産課

〒979-1592 福島県双葉郡浪江町大字幾世橋字六反田7-2

TEL: 0240-34-0245

<https://www.town.namie.fukushima.jp>



# なみえ花通信

<https://www.namie-flower.jp>

～なみえに花を咲かせましょう～

- ・浪江の花が「假屋崎省吾の世界展」にて展示
- ・東京農業大学の学生と稲刈りを行いました



# なみえに 実りの秋がやって来ました

朝晩の冷え込みが日々厳しさを増すなか、浪江町は実り豊かな秋を迎えました。去る10月24日には、花卉農家の新規就農者募集にあたり、初めての試みとなるオンライン相談会「花と暮らす、なみえぐらし」を開催しました。当日はゲストとして、市場で最高品質の評価を受けるトルコギキョウ生産者のNP0法人Jin代表の清水裕香里さんと、花農家として第二の人生をスタートさせた、鈴の木ファームの鈴木好道さんに参加いただきました。花づくりを始めたきっかけや面白さ、就農にあたって必要となる準備などについてお話してもらい、オンライン上の参加者からは「浪江町の花づくりについて具体的に知ることができて良かった」といった感想が寄せられました。浪江の花づくりの魅力とリアルが詰まった、相談会のアーカイブ動画は浪江町フラワープロジェクトの公式Facebookよりをご覧ください。コロナ禍にあっても、強くしなやかに、浪江町は前を向いていきます。



木をテーマとした作品に使われたトルコギキョウ



假屋崎先生の鮮やかな色合い作品



展示会場にて。左からNP0法人Jinの川村さん、假屋崎さん、吉田町長



初めてのオンラインでの就農相談会となった「花と暮らす、なみえぐらし」  
花づくりの楽しさから花卉栽培のスマート化まで、話題豊富な2時間となりました。

Flower  
News  
Sep, 2020

## 「假屋崎省吾の世界展」に 浪江の花が使用されました

9月18日から27日に東京タワーで開催された、假屋崎省吾さんの個展「假屋崎省吾の世界展 華寿絢爛 IN 東京タワー」で、浪江産のトルコギキョウが作品に使用されました。假屋崎さんとは、2019年に浪江を訪れていた際に花農家さんたちとつながりができ、その後は個展やお花教室の際に、たびたび浪江産の花を使用いただいています。今回の個展は本来、今年3月に予定されていましたが、新型コロナウイルスの影響により延期になってしまい、待望の開催となりました。初日の18日には、浪江町の吉田数博町長や花材を提供したNP0法人Jinの川村博さんも観覧に訪れ、假屋崎さんとお会いすることができました。浪江で1本1本丁寧に育てられたトルコギキョウが、假屋崎さんの優美な世界観の中で輝いていました。今後、10月から11月に開催される日光東照宮美術館での個展や、12月に開催される東急プラザ銀座の個展でも、浪江産のお花を使用いただける予定です。お近くの方は、ぜひ足をお運びください。

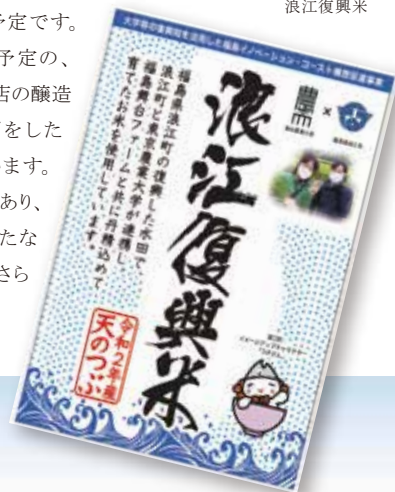
Flower  
News  
Oct, 2020

## 東京農業大学の学生と 稲刈りを実施しました

浪江町では、農業の担い手の確保、収益性の高い農業への転換を目標に掲げ、東京農業大学（以下、東京農大）、株式会社舞台ファーム（以下、舞台ファーム）の2団体と農業に関する包括連携協定を締結しています。今年の春、町内の津波被災地にて、震災後初めてとなる田植えを行った、舞台ファームが営農する24ヘクタールのほ場では、梅雨から夏季の長期間の日照不足にも負けず、稲は豊かに実りました。

そして10月3日には、好天の秋空の下、オホーツク・世田谷・厚木の各キャンパスから集まった東京農大の学生たちが、舞台ファームのスタッフと共に鎌で稲刈りを実施しました。収穫した米は、東京農大×舞台ファーム×浪江町のコラボ商品として、道の駅なみえ  
コラボ商品として販売予定の浪江復興米

また、道の駅敷地内に建設予定の、浪江町の造り酒屋の鈴木酒造店の醸造施設にて、東京農大とコラボをした地酒作りの企画も検討しています。花の酵母を発酵に活用する案もあり、浪江産の農産物を使った、新たな加工品を開発・販売し、農業でさらに町を盛り上げていきます！



収穫時の熟したエゴマの実。手作業で刈り取りが行われます



石井農園のみなさん



食べると10年長生きするとも言われます

Flower  
News  
Oct, 2020

## 浪江発！石井農園より、 今年はエゴマが豊作です

秋晴れの中、石井農園にてエゴマの収穫が行われました。震災により避難を余儀なくされた石井さんですが、「元気を届けたい」という思いから、健康に良いと言われるエゴマを2015年から町内で作付けし始め、今年は約6ヘクタールの土地に作付けを行いました。

エゴマは実が落ちやすいため、基本的に手作業で刈り取りをします。石井さんのもとで栽培技術を学ぶ若者と一緒に、刈り取りから実の選別まで地道な作業を繰り返しました。天候不良で収量が上がらなかった昨年に比べて、今年の出来は上々です。石井農園さんではエゴマをオイルだけではなく、ドレッシングやジャム、ラー油にも加工して販売しています。甘さの中にエゴマのほろ苦さが感じられる「えごま生キャラメル」は人気の商品です。元気な石井農園の活動はエゴマだけにとどまりませんので、今後もご紹介していきます。



稲刈り作業を行う、各地から浪江町に集まった東京農大の学生たち